

## 1 令和2事業年度における予算及び決算（見込）の状況

- 2 支払基金改革の進捗状況  
審査支払機能の在り方に関する検討会（10月9日開催）
- 3 第23次審査情報提供（医科）
- 4 コンピュータチェックに関する公開（更新及び試行的公開）
- 5 役員選任の認可
- 6 支払基金定款の一部変更の認可
- 7 懲戒処分
- 8 基金関係功績者に対する厚生労働大臣表彰
- 9 令和2年8月審査分の審査状況
- 10 令和2年10月審査分の特別審査委員会取扱状況
- 11 令和2年度第6期（9月）分の後期高齢者支援金等収納状況

# 1 取扱件数の状況（コロナによる影響）

## 令和2年度取扱件数の状況

予算 119,248万件 ⇒ 決算見込 105,228万件（▲14,020万件）

取扱件数の状況（3月～8月診療分）

診療月	令和元年度 (万件)	令和2年度 (万件)	増減率 (%)
3月	10,643	9,368	▲12.0
4月	9,642	7,432	▲22.9
5月	9,347	7,084	▲24.2
6月	9,602	8,298	▲13.6
7月	9,857	8,682	▲11.9
8月	9,123	8,457	▲7.3

※ 令和2年8月診療分は受付時のデータ（速報値）を基に推計した値である。

## 令和2年度事務費収入の状況

予算 713.7億円 ⇒ 決算見込 630.1億円（▲83.6億円）

## 2 収入支出見込の状況

### 収支差見込に対する対応

収入欠損額は、2年度の支出予定額から可能な限りの削減を行い、別途積立預金（前年度剰余金 21.5億円）を補正予算により繰り入れた上で、なお不足する額（▲34.4億円）は、退職給付引当預金への繰入の予定額を 38.0億円 → 3.6億円に減額して対応

### 収入見込

予算 905.8億円 ⇒ 決算見込 815.3億円（▲90.5億円）

【内訳】 件数減による事務費収入減 ▲83.6億円  
受入金・雑収入の減 ▲ 6.8億円

### 支出見込

予算 905.8億円 ⇒ 決算見込 836.8億円（▲68.9億円）

【主な内訳】 ・ 給与諸費の減（超過勤務手当・期末手当の減） ▲ 1.4億円  
・ 業務経費の減 ▲48.8億円  
    （内訳） 一般業務経費の減（システム改修の先送り、Web化による研修旅費の削減等） ▲ 8.2億円  
            納付消費税の減 ▲ 6.2億円  
            退職給付引当預金への繰入の一部抑制 ▲34.4億円  
・ 審査委員会費の減（委員会未開催による手当減等） ▲8.5億円  
・ 施設費の減（大規模修繕等の中止） ▲5.6億円 等

## 【参考】令和2事業年度における予算及び決算（見込み）の状況

単位：億円

## 収入の部

## 支出の部

区分	予算額	決算見込額	予算差額	事項科目	予算額	決算見込額	予算差額
(款・項) 事務費収入	713.7	630.1	▲83.6	(款)業務取扱費			
(款・項) 受入金	177.3	171.8	▲5.5	(項) 事務取扱費			
〈内訳〉				給与諸費	356.3	354.9	▲1.4
－ (別途積立預金からの受入金)	32.8	32.8	－	業務経費	392.8	344.0	▲48.8
－ (IT化推進経費積立預金からの受入金)	139.0	139.0	－	〈内訳〉			
－ (施設及び設備準備積立預金からの受入金)	5.5	－	▲5.5	－ (一般業務経費)	317.6	309.4	▲8.2
(款・項) 雑収入	14.7	13.4	▲1.3	－ (納付消費税)	37.2	31.0	▲6.2
				－ (退職給付引当預金への繰入)	38.0	3.6	▲34.4
				(項) 役員会費	0.5	0.5	▲0.0
				(項) 審査委員会費	120.6	112.1	▲8.5
				(款・項) 施設費	7.8	2.2	▲5.6
				(款・項) 積立金	24.1	23.1	▲1.0
				(款・項) 予備費	3.7	－	▲3.7
収入合計	905.8	815.3	▲90.5	支出合計	905.8	836.8	▲68.9
				収支差 (収入合計－支出合計)	－	▲21.5	－

### 3 見込件数の試算について

#### 年度前半（令和2年3月診療分～8月診療分）の検証

- ・ 対前年度比では、4月診療分（▲26.0%）、5月診療分（▲27.5%）が顕著
- ・ 6月診療分以降は減少率が縮小傾向
- ・ ただし、特定の診療科（小児科等）では依然として▲20%後半の減少率

#### 年度後半（令和2年9月診療分以降）の見込件数の考え方

- ・ 見込件数を未就学者（6歳未満）件数と、就学以上に分けて試算
- ・ 未就学者は、直近（8月診療分）の減少率の半分程度まで回復と仮定
- ・ 就学以上の者は、前年度の水準まで回復と仮定

⇒ 令和2年度取扱見込件数は、実績値対前年度比▲9.5%と試算

※ 実績比較（令和元年度	：116,229万件	2年度見込み	：105,228万件	▲11,001万件	▲9.5%
予算比較（2年度予算件数	：119,248万件	同上		▲14,020万件	▲11.8%

## 【参考】取扱件数の見込方法

## 令和2事業年度取扱件数の状況

緊急事態宣言下では大幅な減少が見られたが、6月以降は減少率が縮小

診療月	令和元年度 (万件)	令和2年度 (万件)	前年同月 増減率 (%)	平日日数 調整後
3月	10,643	9,368	▲12.0	▲12.0
4月	9,642	7,432	▲22.9	▲26.0
5月	9,347	7,084	▲24.2	▲27.5
6月	9,602	8,298	▲13.6	▲16.9
7月	9,857	8,682	▲11.9	▲8.4
8月	9,123	8,457	▲7.3	▲7.3

注釈: 6月と7月の平日日数調整後の差は+1.7、7月と8月の差は+4.6、6月と7月の前年同月増減率の差は+8.5、7月と8月の差は+1.1。

※ 令和2年8月診療分は受付時のデータ（速報値）を基に推計した値である。

※ 「平日日数調整後」は平日日数の違いによる影響度を調整した対前年同月増減率。

3月診療	4月診療	5月診療	6月診療	7月診療	8月診療
H31.03 : 25日	H31.04 : 24日	R01.05 : 22日	R01.06 : 25日	R01.07 : 26日	R01.08 : 23日
R02.03 : 25日 (±0)	R02.04 : 25日 (+1)	R02.05 : 23日 (+1)	R02.06 : 26日 (+1)	R02.07 : 25日 (-1)	R02.08 : 23日 (±0)

## 【参考】取扱件数の見込方法

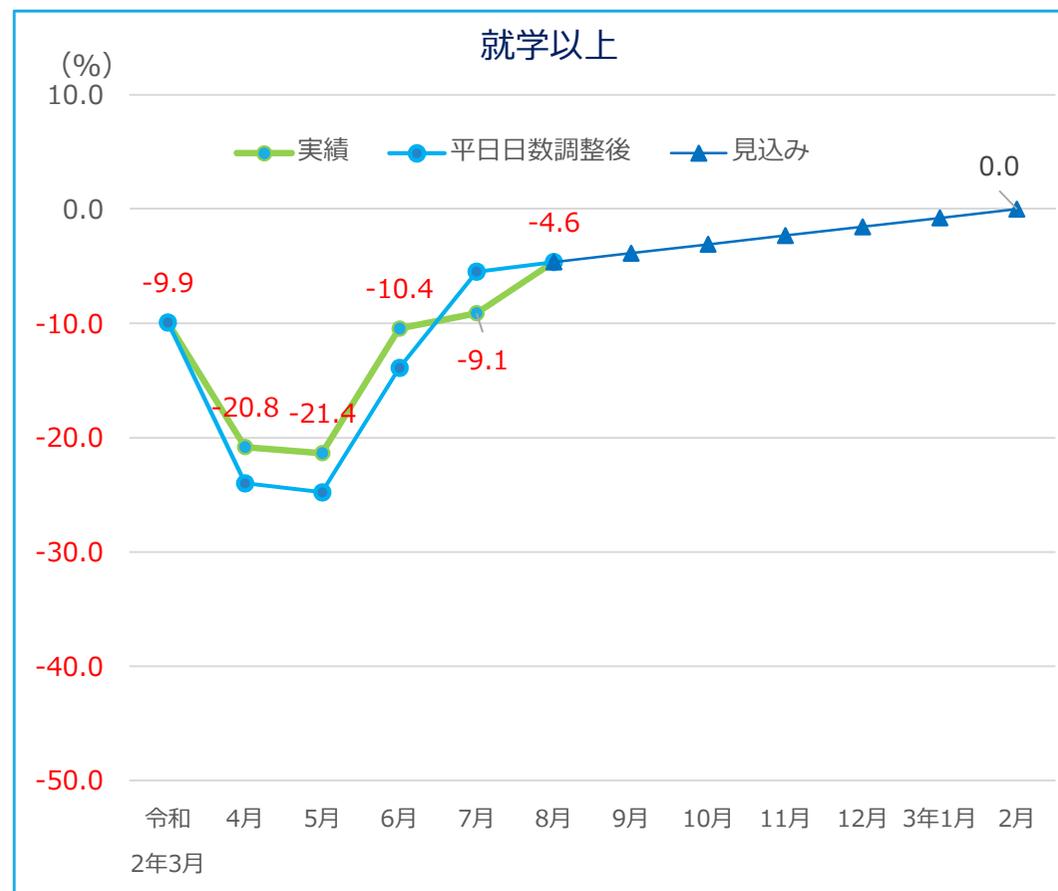
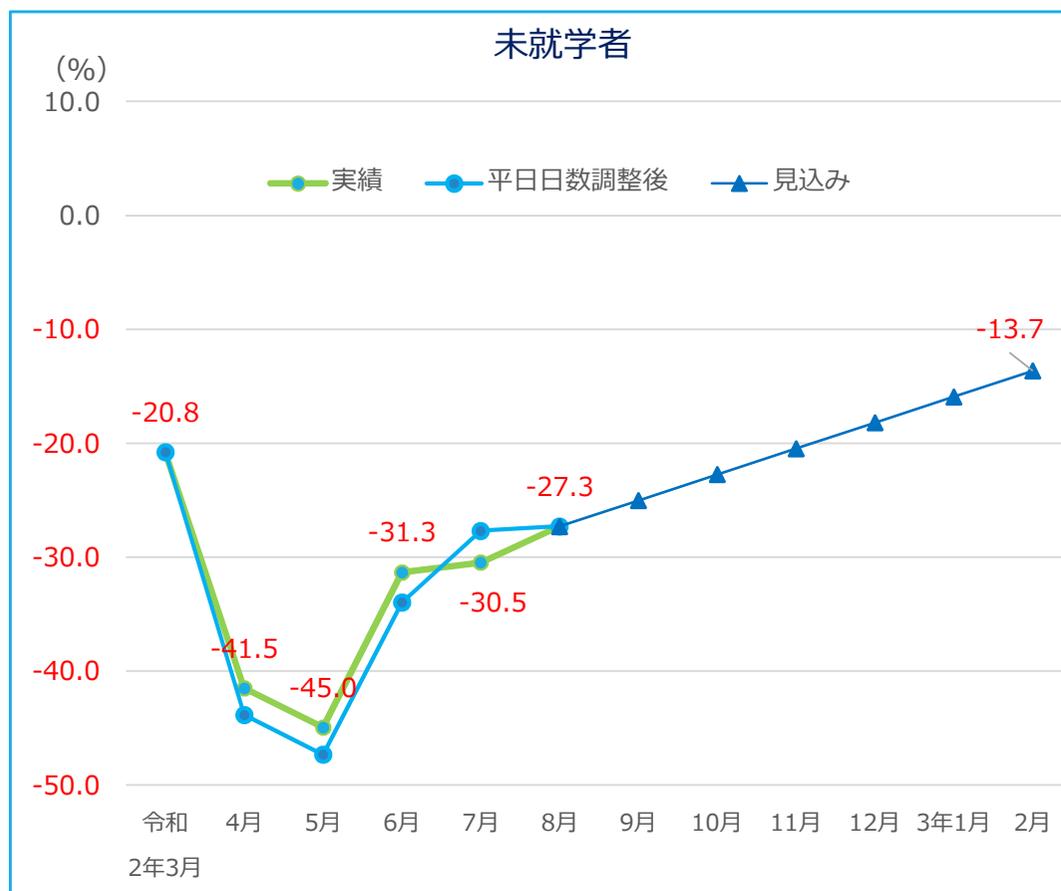
## 令和2事業年度取扱件数の年齢別の影響を踏まえた今後の見込方法

未就学者は緊急事態宣言解除後も減少率が大いことから、

未就学者・・・直近の減少率の半分程度まで回復する

就学以上・・・前年の水準まで回復する

ものとして前提をおき、9月診療分以降を見込む。



※ 被用者保険の取扱件数（医科歯科訪問看護）の対前年同月増減率。

※ 「平日日数調整後」は平日日数の違いによる影響度を調整した対前年同月増減率。

## 【参考】取扱件数の見込方法

## 令和2事業年度取扱件数の見込み

診療月	令和元年度 (万件)	令和2年度 (万件)	前年同月 増減率 (%)	平日日数 調整後
3月	10,643	9,368	▲12.0	▲12.0
4月	9,642	7,432	▲22.9	▲26.0
5月	9,347	7,084	▲24.2	▲27.5
6月	9,602	8,298	▲13.6	▲16.9
7月	9,857	8,682	▲11.9	▲8.4
8月	9,123	8,457	▲7.3	▲7.3
9月	9,155	8,938	▲2.4	▲6.4
10月	9,505	9,695	2.0	▲5.6
11月	9,777	8,934	▲8.6	▲4.6
12月	10,265	9,882	▲3.7	▲3.7
1月	9,450	9,196	▲2.7	▲2.7
2月	9,864	9,262	▲6.1	▲1.8
年度計	116,229	105,228	▲9.5	

※ 9月以降は、改善傾向を見込んで推計

※ 令和2年8月診療分は受付時のデータ（速報値）を基に推計した値である。  
 ※ 「平日日数調整後」は平日日数の違いによる影響度を調整した対前年同月増減率。